コマツナ

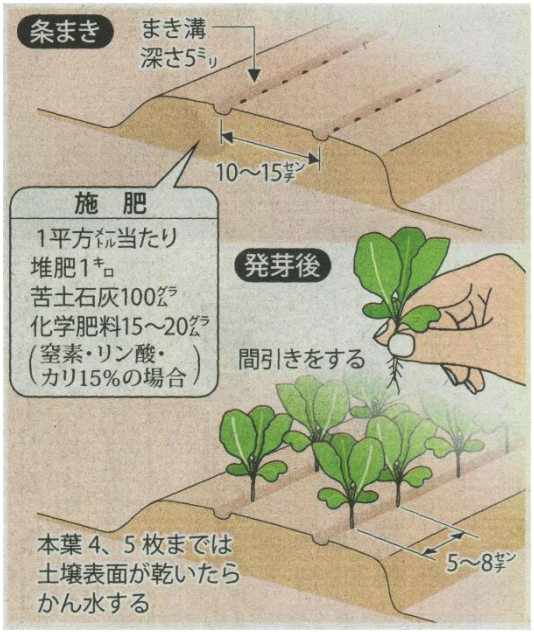
数日おきに種まきを

西　真司

アブラナ科の１年生草本で冬菜（ふゆな）・鶯菜（うぐいすな）・雪菜（ゆきあ）などの別名をもちます。カブを祖先とし，東京都江戸川区小松川流域で育成されたとされています。

最近では耐暑性のあるチンゲンサイなどとの交雑種が多く，南九州でも周年栽培されています。柔らかく，あくが少ないので，煮びたし，妙め物，おひたし，あえ物，漬物など，くせのない食味から料理の用途も広く，βカロチン（ビタミンA），ビタミンB群，ビタミンK，ビタミンCのほか，カルシウムやカリウムなどミネラル類も豊富に含み，機能性成分に富む緑黄色野菜です。

コマツナの発芽適温は１２度～３０度で，最低気温の限界は４～８度です。厳寒期を除けば露地でも育てられますが，特に病害虫の少ない秋は育てやすいです。



どんな土質でも生育しますが，有機質に富む粘質土壌か壌土が適します。酸性にも比較的強いですが，良品多収のためには土壌ｐＨが５.５～６.５がより望ましいです。本ぽは１週間前までに，１平方メートルあたり堆肥１キロ，苦土石灰１００グラム，化学肥料（窒素・リン酸・カリで１５％の場合）１５～２０グラム程度施し，耕転します。

播種前に２０センチ程度の深さまで水分が浸透するようにたっぷりかん水し，適度な湿り気になったら播種します。種子は本ぽ１平方メートルに１.５～２.０ミリリットル必要です。支柱などで深さ５ミリ程度のまき溝を１０～１５センチ間隔でつけ，条まきにし軽く覆土してから鎮圧をかねて軽くかん水します。発芽後，本葉２，３枚になったら苗間隔が５～９センチ程度（一平方メートル当たり１００株）になるように間引きます。ついでに奇形になった株や生育の特に悪い株も除きましょう。

播種から本葉４，５枚までは適度な水分が必要で土壌表面が乾いたらかん水します。本葉４，５枚以降は土壌表面がかなり乾燥するまでほとんどかん水しません。

草丈が２５～２７センチ程度になった頃が収穫適期です。種まきから収穫までの日数は５０日程度です（夏まきは２０～２５日程度）。収穫適期を逃さず順次収穫するためには，数日おきに順次種まきをすると良いです。

（鹿児島県農業開発総合センター・園芸作物部野菜研究室研究専門員）

平成２８年１１月１０日／南日本新聞